赤十字国際ニュース

2026 年 第 72 号 2026 年 11 月 25 日
（ 通巻　第 1859 号 ）
日本赤十字社 国際部
東京都港区芝大門 1-1-3　TEL 03-3437-7087 / FAX 03-6674-1004
E-mail:kokusai@jrc.or.jp　https://www.jrc.or.jp/

トルコ・シリア地震から３年半－被災時からの支援の成果と新たな防災への取り組み

2026 年９月、日本赤十字社（以下、日赤）職員は、2023 年に発生したトルコ・シリア地震の被災地であるトルコ南東部を訪問しました。現地では、復興の現状やこれまでの支援の成果を確認するとともに、2026 年８月に新たに開始した防災事業について、関係者との協議を行いました。今回は、被災地の復興状況や支援の成果、そして新たに始まった防災事業についてお伝えします。

2023 年２月６日に発生したトルコ・シリア地震は、トルコ南東部およびシリア北西部に甚大な被害をもたらしました。発災時の衝撃的なニュース映像を覚えている方も多いのではないでしょうか。トルコでは５万人以上、シリアを含めると約６万人もの方々が犠牲となり、非常に多くの人びとが住まいや生活基盤を失いました。

日赤は、トルコへの支援として、皆さまからお寄せいただいた救援金をもとに、発災直後から国際赤十字・赤新月社連盟およびトルコ赤新月社と連携し、被災者への緊急支援から復興支援、そして防災支援まで継続的に取り組んでいます。これまでの支援内容については、こちらの事業ページをご覧ください。

【事業ページ】
2023 年トルコ・シリア地震救援｜活動実績｜国際活動について｜日本赤十字社



被災地域の地図

■復興が進む被災地、その一方で残る課題

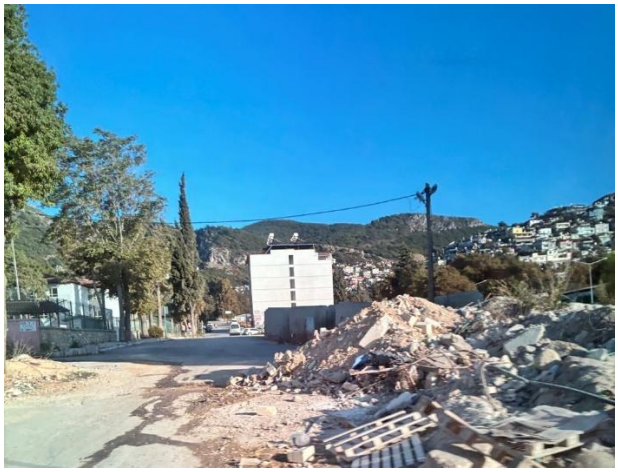
トルコ国内の被災地では、仮設住宅から災害公営住宅への移転が進められており、被災者の生活再建が着実に進んでいました。

しかし、特に大きな被害を受けたハタイ県のアンタキヤ市では、災害公営住宅への移転が進む一方で、現在も各所で再建工事が続き、道路脇にはがれきが残っている場所もありました。街並みは大きく変化しつつありますが、今なお地震の爪痕が残されており、復興には時間を要することがうかがえました。

また、震災により親を失った子どもや障がいのある方への支援、災害公営住宅への入居条件を満たさない被災者への支援、コミュニティ再建に向けた取り組みなど、復興が進む中でもさまざまな課題が残されていることが共有されました。



ハタイ県アンタキヤ市内（建設中の災害公営住宅群）©JRCS



ハタイ県アンタキヤ市内（道路の端の所々にがれきが残る）©JRCS

■地域に寄り添う復興支援の成果

日赤はこれまで、トルコ赤新月社を通じ、地域保健（健康相談、健康啓発）や心理社会的支援を目的としたリクリエーションなどを、被災した６県（ハタイ県、アドゥヤマン県、ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、マラティヤ県、オスマニエ県）で支援してきました。今回の訪問では、６県のうちの１県であるハタイ県で、実際に支援を受けた方々から直接お話を伺いました。

参加者からは、心理社会的支援の一環として実施されたレクリエーションなどを通じて、震災後の不安や孤立感の軽減につながったことや、人とのつながりを再び築くきっかけとなったことなどが語られました。

今回訪問したトルコ赤新月社ハタイ県支部は、現在も被災者が暮らす仮設住宅地区にあります。この建物は、震災から約３カ月後に仮設住宅地区のコミュニティサービスセンターとして設立されました。被災者が集い、支援を受ける場所として 2025 年 12 月 31 日まで運営されていました。災害公営住宅への移転が進んだことに伴い、コミュニティサービスセンターとしての運用は終了しましたが、現在はハタイ県支部の事務所として活用されています。自らも地震を経験した支部の職員たちは、震災対応としての役割が一段落した今も、被災者の方を含む地域のニーズの変化に合わせて支援を続けています。



トルコ赤新月社ハタイ県支部（トルコ赤新月社本部および支部職員と日赤職員）©TRCS

　また、アドゥヤマン県では、日赤が支援した献血バスおよび献血ルーム、そして現在建設中の献血センターを訪問しました。献血バスと献血ルームでは、実際に地域の方々が足を運んでおり、地域の安定した血液供給体制の強化に貢献している様子がうかがえました。建設中の献血センターも、完成後は地域住民の健康を支える重要な施設となる見込みです。


アドゥヤマン県（献血バスで問診を受ける献血協力者）©TRCS


アドゥヤマン県（建設中の献血センター）©JRCS

■復興の経験を未来の備えへ、新たな防災事業の開始

被災地の復興が進む一方で、将来の災害に備える取り組みも始まっています。日赤は2026 年８月、トルコ赤新月社と新たな防災事業を開始しました。本事業では、地域や関係機関の災害対応能力の強化を目指し、防災における知見や経験の共有、人材育成などに取り組みます。

今回の訪問では、防災事業の開始にあわせて開催された関係者会議に参加しました。会議では、2023 年の大地震で得られた経験や教訓を将来の災害対応に生かすため、関係機関との連携強化に向けた意見交換も行われました。



アンカラ県（防災事業関係者会議で目標達成に向けた方策を検討する参加者）©JRCS

トルコは日本と同じ地震大国です。また地震以外にもさまざまな自然災害のリスクを抱えています。これまでの復興支援で培われた経験を未来の備えに生かすことは、災害に強い地域づくりにつながります。また、互いの知見を共有することで、両国の災害への備えにも寄与すると考えています。

日赤は今後も、トルコ赤新月社と連携し、復興支援と防災・減災の両面から被災地を支えていきます。



メールマガジン『赤十字国際ニュース』

赤十字が世界中で行っている人道支援活動の最前線と、それをとりまく最新ニュースをメールでお届けします。

メールマガジンへの登録は、左の画像をクリックしていただくか、二次元コードを読み込んでいただいた先の登録フォームからお願いいたします。